

ルーテル希望の会研修会に参加者の皆さんへ

お忙しい中、第3回地域福祉を推進するルーテル学院大学卒業生の集い・希望の会」研修会にご参加下さり、心より感謝しています。本希望の会は、以前から社協に勤める卒業生を対象に開催していた研修会を、地域福祉に関心のある卒業生を対象に広げ、本年度で3回目になります。

大学を会場にして35名、zoomで11名、合計46名の卒業生、教員が集まりました。本研修会が、再会を喜び、皆さんが学んだ学生時代を懐かしく振り返り、それぞれの思いを話すことができた機会になりましたら、私たちにとっても、うれしいことです。

「孤独・孤立防止の取り組みとコミュニティの再生～つながりづくりのソーシャルワーク実践」とテーマに掲げましたように、今日の社会は、解決が困難な生活問題を抱えています。孤独・孤立の問題は深刻で、全国で100万人を優に超える方々が引きこもっています。また貧困の広がりも顕著で、コロナ感染症の影響もあり、失業等により生活が困難になっている方々が増加し、子どもの貧困も顕在化しています。また地震・大雨等の自然災害は、どこで起こっても不思議でない現状にあります。しかし、介護保険の現場で明らかなように、ケアワーカー、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等の担い手が不足し、事業の実施に影響が生じ、構造上の問題が生じています。ルーテル学院大学・大学院は2024年より募集を停止しましたが、これらの問題との関係があると私は思います。

このような中で、大切なことは3点。①自らの働きを問い直すこと、②地域・地域ケアのあるべき姿を描くこと、③協働した働きを始めることです。今回の研修会では、能登半島地震の支援現場から見えてくるコミュニティ再生の諸課題、社会福祉協議会基本要項の改定と地域福祉実践、当事者を中心とした応援ミーティングの実践と子育てを応援する地域づくりという3つの取り組みを報告して頂き、援助の課題と可能性について一緒に学ぶことができました。それぞれの場で、ぜひ、協働した取り組みを始めましょう。

ルーテル学院大学・大学院で学び、社会に巣立ち、さまざまな場で重要な役割を担っておられる方々はたくさんおられます。その事實は、大学・大学院の誇りです。今回は仕事や家庭の都合で来られないと、たくさんの卒業生から連絡が来ています。今後も、ルーテル学院のネットワークを大切にして、卒業生の集い・希望の会を可能な限り開催していくつもりでおります。確かに、様々な要因が重なり解決が難しい問題にどのように取り組むか、良く問われます。私は絶対的な

正解はないと申し上げます。一人で抱え込まず、さまざまな援助者と一緒に取り組む関係、立ち戻る原点があることが大切で、希望の会もその場でありたいと思っています。また一緒に明日への希望の灯を灯しませんか。

改めまして、ご参加頂き、本当にありがとうございました。

2024年9月1日

市川一宏



会計から報告 会場でヒューマンシールド神戸(吉村さん)への募金箱を設置いたしました。合計 13,265 円でした。こちらは、ヒューマンシールド神戸へ送金させていただきます。ご協力ありがとうございました。

幹事からのメッセージ(アイウエオ順)

「はじめまして」でもすぐに打ち解ける。ルーテルならではのアットホームさで、研修会やうどん鷹での交流会は、様々な分野の方たち同士でお話が盛り上がり、普段の仕事や日常生活では出会わない方たちとのつながりができました。

今回の研修のキーワードでもある「つながりづくり」は私たちにとっても、安心をもたらしたり、可能性を拡大してくれる大事な要素です。卒業しても先生方、世代を超えたOB・OGたちとつながり、勉強や情報交換をしたり、ソーシャルワーカーとしての原点に立ち、成長に導いてくれるのが「希望の会」です。

個人的な話ですが、交流会の最後で実家の隣のお姉さんと数十年ぶりの再会をしました。お互いに顔も苗字も変わり、幹事の池永さんの会話からつながった偶然の発見でした。

希望の会は新たな出会いや再会の場であり、つながりの場であり、参加者の近況から「自分も頑張ろう」とパワーをもらいます。

今回参加した方はもちろん、参加できなかった方たちも、来年はぜひお会いできることを楽しみにしています。

飯島(藤谷)ともえ (相模原市社協、1996年度大学・2020年度大学院卒業)

希望の会研修会にご参加いただいた方々、この度はありがとうございました。

今回のテーマでした「孤独・孤立」また、多発している「災害」と様々な場面で人と人との繋がりが重要だと実感しています。中でも私たち専門職の繋がりは貴重なものだと思います。

希望の会は今年で3回目の研修を開催することができました。この繋がりを今後も大切にしていきたいと感じています。

また皆様にお会いできることを楽しみにしております。

池永雄一郎 (羽村市社協、2008年度大学卒業)

参加者の皆様、ご参加いただき、ありがとうございました。

私は永年所属した社会福祉協議会を離れてみて、地域社会における社協の役割の大きさに改めて気がつきました。今の社協がどれ位その役割を果たしているか、もありますが（なんて喧嘩を売ってしまいそうですが）、とは言え、この役割を活用しないと地域住民が損をしてしまう、とつくづく思います。

ボランティア活動や NPO など地域で活躍している市民を把握し、また地域課題が見えている社協のコーディネーターが地域福祉を推進する専門性の視点をもって地域社会全体をコーディネートしていくのが理想なのではないでしょうか。

皆様とご一緒に社協をエンパワメントして、地域福祉を進められたらと思います。これからもよろしくお願いいたします。

河島京美（元練馬区社協、2002年度大学院卒業）

今年の希望の会も、多くのルーテルの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。オンラインでご参加の皆様にも、分科会での意見交換にご協力いただき、ルーテルの皆様のご活躍とつながりの強さをあらためて感じました。また、来年もお会いしましょう。

桑原信人（全社協、2020年度大学院卒業）

希望の会にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

拙く長い講演となってしまいましたが、このような場でお話をさせていただけたことは、私にとって良い経験となりました。

ルーテルの先輩方から現役生まで幅広い方々と、この希望の会で集まり、お話をお聞きできることは、現場から少し離れた場所で地域福祉を考えている私にとっては大変貴重な学びの場となっています。

このようなネットワークが続いていきますよう、幹事として微力ながらも協力していきたいと思っておりますので、

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

駒井 公（全社協、2018年度大学院卒業）

第3回目を迎えましたルーテル希望の会の研修会、今回は関係者のご協力により大学や同窓会の通知に合わせて通知をすることができ、そこから知ったという参加者もいらっしゃいました。

だんだんの参加の輪が広がりつつあるのが嬉しく思います。

それぞれの場において抱えている孤独、孤立の課題について考える場になったこと感謝します。

まだまだこれからもこの研修会を広めていくためにも、今回参加された参加者の方もお友達にお声掛けいただき、来年は更に参加者が増えることを願っています。

関根裕恵（西東京市社協、1989年度大学卒業）

第3回目の希望の会（地域福祉を推進するルーテル学院大学卒業生の集い）へのご参加、ありがとうございました。昨年の希望の会の集まりから、約1年ぶりにルーテル学院大に来て、校舎や敷地内の木々の風景を見ていましたが、校舎のデザインも敷地内の緑の風景も、いつ見ても気持ちが落ち着く、いい景色だなあと感じていました。

3回目の希望の会も、幹事の皆さんとの企画・協働、多くの皆さんの参加・協力で、互いの学びや実践の交流が深まる、いい集まりになったと思います。自身も「社会福祉協議会基本要項の改定と地域実践」のテーマで報告する機会をいただき、取り組んでいることを振り返り、今後を考える、省察のよい機会となりました。ありがとうございました。

ルーテル学院大学での学びと経験、卒業生のつながり、大学の風景や様々な思い出は、皆さんの心に残り、それぞれの仕事、家庭、地域・社会での諸活動をこれからも支えていくと強く感じています。アフガニスタンの地で現地の支援に尽力した中村哲さんは、いつも「一隅を照らす」という言葉を好んで使われていました。「一隅を照らす」ような小さな英雄は、人知れず数多くいるのだと。ルーテル学院大学の卒業生の皆さんも、それぞれの活動の場で一隅を照らしているのだと思います。くれぐれもご自愛の上、元気でまたお会いしましょう。

山本繁樹（立川市社協、2003年度大学院卒業）

第3回ルーテル・希望の会研修会に参加くださり、ありがとうございました。大学のブラウンホール 252 教室をメイン会場として、また Zoom からも参加していただきました。大学の施設やプロでない幹事の対応にも限界もありましたが、皆様のご理解に感謝いたします。

今回初めて参加された方、また複数回参加された方もおられて、大学と大学院の垣根を越えて同窓生のつながりがつくられていることを大変、嬉しく思っています。今後もこのような共に学ぶ機会が続くことを願っています。

皆さん、お元気で!

原島博 (ルーテル学院大学教授、1986 年度大学卒業)

顧問からのメッセージ

「第3回地域福祉を推進するルーテル学院大学卒業生の集い・希望の会」研修会に参加下さった皆様ありがとうございました。3名の方の報告は本当に素晴らしいものでしたし、小グループでのディスカッションや懇親会での自己紹介と近況報告からも、参加者の積み上げられた実践と実践に結びつけられた思想や理論、価値観等が伺え、本当に刺激的でした。

3名の報告から地域の自助、互助機能が急激に低下している事。共助、公助の機能が衰え、自助公助機能を代替することが困難になっている事が実感させられました。しかし、その中で、地域をベースに住民や社会資源が参加・協働して生み出す、新しい価値を持つ地域づくりが可能なことが示されたように思います。ルーテル学院大学卒業生の集い・希望の会が、みんなで作る新しい価値を持つ地域づくりの推進に大きな役割を持つことになる事を祈念しています。またお会いしましょう。

和田敏明 (ルーテル学院大学名誉教授)